



鳥取県臓器・アイバンクでは、移植医療のことを県民の皆様に理解していただくための普及啓発活動や、県内の医療施設における移植医療に関する院内体制整備の支援、円滑な臓器提供・移植のための各関係機関との調整を行っています。
平成26年度の活動をご報告します。

第7回グリーンリボン公開講座を開催



平成26年10月19日(日)米子コンベンションセンターで開催し、125名が参加されました。平成26年4月に当財団は設立20年を迎え、米子工業高等専門学校に当財団のシンボルマークデザインの募集を行いました。本講座の冒頭にて、シンボルマークデザインの最優秀賞・優秀賞の表彰式を行い、次いで、心臓移植医による日本の移植事情のお話、ドナー(提供者)家族様の複雑な心境、移植患者様の闘病の大変さと元気になった喜びの気持ちをお聞きしました。



移植医療を考える講演会とコーラス 一つなく命の大切さを考える一

講演1

移植医療の今！ そしてこれから！



福畠 教偉 氏
(大阪大学医学部附属病院 移植医療部 副部長)

要旨

まず、病気について、臓器の本来の働きが悪くなり、健診での検査の値がおかしくなるといっても機能障害といえます。更にひどくなると、大部分が異常値になり、今ある治療法では治せない非常に重篤な状態を末期的臓器不全といいます。そうすると人工臓器を使用したり、臓器移植をしないと生きていけなくなります。

人工心臓、これは以前は大きな機械だったのでずっと病院に入院したまま、何年も移植を待っているという子どもがいる状況でした。最近、埋め込み型人工心臓といって、小さな機械を体の中に植え込むため、移植を待ちながらも、外に出たり学校に行ったりできるようになりました。

そこで「海外渡航移植」について考えてほしいと思います。現在は子どもの臓器提供もできるようになりましたが、なかなかドナーが現れず、結局海外へ行って移植をするという現象が起きてしまっています。

米国がなぜ外国人を受け入れてくれるかというと、米国には15%くらい米国籍を持たない外国人が住んでいて、そういう外国人が米国で臓器提供(全体の10%)をしているから、米国で

は外国人も臓器移植を受けられるルールがあるんです。日本からお金を持って行って移植をするためのルールではないということも知っておいて頂ければと思います。

また、米国では大体毎年300人くらいの子も達が心臓移植を受けられていると同時に、毎年100人くらいの子もが移植を受けられずに亡くなっているんです。日本人7人が心臓移植を受けましたが、もし日本人7人が心臓移植を受けなかったら、この100人のうち7人が助かったと思いませんか。アメリカに住む子ども達のチャンスを日本人が奪っているということも是非知っておいてください。日本人もアメリカ人も同じ命ですよ。アメリカのお父さんお母さんが自分の子どもが脳死になって臓器提供する確率は、日本人と変わらない。そのうえで、海外で提供されて命を頂くことが、本当にただ美談にされている。沢山のお金が必要だとか、だれが連れて行くのか、そんなことばかり問題になりますけれども、本当に問題にすることはそこなのでしょうが…。

移植を受けることを考える時に、何よりも大事なのは、本人と家族が移植をよく理解しているかということです。たとえば家族間の生体移植であれ、亡くなった誰か知らない方の体であれ、その方から頂いた臓器を大切にすることが、移植を受ける条件なんです。感謝の気持ちを持つ事、これが移植の基本となります。

最後になりますが、あげたい、あげたくない、もらいたい、もらいたくない、というのは、平等なんです。どっちが正しいとか、そんなものではない。人から左右されることなく、自分自身で考えていただきたいと思います。

臓器提供をした家族の想い～三男の残した意志～ 来海 千壽子 氏



要旨 私は長男と社交ダンススタジオを開きながら、介護士として働くという、二足の草鞋をはきながらの毎日を送っています。周りの方には「なぜ隠居する年になってまでそんなに頑張るの」などと言われるけれども、介護福祉士を目指していた三男が交通事故に遭う前日に「死んでもダンスだけはやめない」と言っていたことがきっかけです。

三男は大学3年生の時に急に介護がやりたいと言い出し、介護福祉士の専門学校に通い始めました。入学から三か月後、学校に行く途中で事故に遭い、一瞬のうちに脳死になってしまいました。

病院に駆け付けた時には、体中が管だらけになってました。だからその時は、「誰かの中ででもいいから生きてほしい。灰になって欲しくない」と思う一心でした。人さまのお役にたたいとか、そういうことではなく。

ただそれだけの思いで、病院の先生に、「この子の心臓から全て、どなたかに移植して生かしてもらうことはできませんか」とお願いしました。けれども、当時は法改正前であり、息子本人がドナーカードを持ってなかったことから、脳死での臓器提供はできず、結局、8日後に心停止を迎えた後、腎臓、角膜、心臓弁などの組織の提供となりました。それによって、私はすごく気持ちが安らいだんです。いつもどこかで生きてるという思いがとても強くなった感じがして。

ところが、身内には、「あんたすっごい怖いことする、冷たいことする」と言われました。また、ドナーファミリーの会に参

加しました時に、同じように子どもさんを亡くされた方でも、両目を提供してあの世で目が見えなかったら不自由だ、内臓が欠けてたら向こうでも不自由するだろう、と言われる方がいました。

そのとき、「ああ、そういう考え方もあるのか、人の考え方っていうのは色々で、私の考え方が全てじゃない」とすごく思いました。どんな考え方も、どれが正しいっていうことは絶対ないということがわかったんです。人間って、自分が正しいと思いがちですけども、絶対に正しいっていうことはこの世の中に無いのかなと。すると、本当に自分がやってきたことが疑問だらけになるんですよ、いろんな人と話すたびに。

私自身は自己満足だったのかもかもしれませんが、息子は大泣きしている赤ちゃんがいた時にはにこっと笑ってあやしたり、困っているお年寄りがいると駆け寄って手を貸したりとかしていた子ですので、やっぱりこれで良かったんだと思う一方で、最近になり改めて、私がやったことは本当に正しかったんだろうかと思えます。

現在は、「高齢者とか障害者の方と一緒に社交ダンス、車いすダンスを、一つの広い会場でレッスンできてもいいんじゃないか」という息子の想いを継ぎ、全国から車いすの方がレッスンに通いやすい、駅の近くでダンススタジオをやっています。それと同時に、息子が目指していた介護の仕事にどうしても取り組んでみたいと思い、60過ぎてから介護の世界に入り、今は昼間にデイサービスのお手伝いをさせていただいています。

息子の意志を継いでいくのは私自身の夢であり、生きがいですので、これから先もこういう形で一緒に生きていきたいと思っています。

2度の移植で、腎臓4つ。絶賛！幸せ中

松本 優志 氏



要旨 34才の時、私の2つの腎臓は機能を失い、辛い透析生活が始まりました。

それから10年後、幸運なことに母の病気が治り、腎移植のドナーになれたのです。待望の腎移植であり、迷いなく移植手術を受けました。それほど透析生活がしんどかったのです。

腎臓が3つになり、この3つめの腎臓に「お母ん腎」と名付けました。お母ん腎により私は劇的に健康になり、生まれ変わりました。

移植という、他人の臓器を自分の体内に入れる行為に対しては免疫機能が働き、抗体が他人の臓器を異物と認識して攻撃し、排除しようとする。この攻撃を「拒絶」と言います。お母ん腎にとっては、たいへんな脅威です。抗体を作らないように、術前から術後もずっと免疫抑制剤を服用しますが、それでも少しずつ抗体が作られ、攻撃してきます。最終的に15年でお母ん腎は機能を失い、去年遂に透析を再導入しました。

その後、今度は女房が「私の腎臓をあげよう」と言ってくれました。しかし、2回目の移植はハードルが高かったのです。女房の腎臓を移植した場合、お母ん腎をやった抗体が、また襲ってくるのがわかりました。女房の腎臓はひとたまりもありません。

そんな状況でも担当の医師は、術前6ヶ月からの前処置と、

更に術後の対応策も考案してくれました。前処置は主に免疫抑制剤の服用なのですが、透析しながらの免疫抑制剤は苦しかったです。しかも、移植が上手くいくという保証はどこにもありません。私は苦しさに耐えながら手術当日を迎えました。

今回の移植は不安でいっぱいでした。1回目とは大違いです。なにせ抗体が身体に出来てしまっている状態だったので、たちどころに移植腎が攻撃されて、全身麻酔から覚めた時には既にだめになっている…とか、1週間程度でおしっこが出なくなる…とか、手術そのものが中止になる…とか。人間は時間があるといろいろと後ろ向きな発想をするものですね。しかしこの不安は全く実現しませんでした。手術は予定通り実施され、目覚めた時、移植腎は元気に活動していました。2回目の移植腎は、ニョ～ボ腎と呼びます。抗体は存在しているのに、なぜかニョ～ボ腎を攻撃して来ません。抗体もニョ～ボが怖いのでしょうか(笑)

術後は大事を取って、2ヶ月間入院しました。日に日に元気になり、力が腹の底から湧いてきて、幸せを実感していました。この感覚は嬉しかったですよ。移植に挑戦して良かったあと何度も何度も思いました。

現在、術後11ヶ月が経ち、ニョ～ボ腎がすごく頑張っていて、体調良好です。

26年前の透析で、お母ん腎移植で、再導入の透析で、そしてニョ～ボ腎移植でそれぞれお世話になった医療従事者の方、そして治療を支えてくれた国の健康保険制度に感謝しています。



要旨 私は5年前に、鳥取大学病院眼科の井上先生による、左目の角膜移植手術を受けました。

当時、両目は病変により、「このまま放置すれば、いずれ視力を失う危険がある」と診断されました。さらに他の疾患により、左目の角膜中央部分は既に濁っており、正常な視力を回復するには角膜移植手術しかないという状態でした。

5年前の1月にまず両目の病変の手術を受け、5月に入ると大学病院から「提供者がありました。移植手術が受けられます」と連絡をいただきました。

手術後の経過は良好で、自分の頭の中には「誰かが亡くなられて、その人の意思で提供された角膜が今、この私の眼の中にある。ありがたいことだ」という意識はたしかにありました。

しかし、角膜移植はほかの臓器移植のように人の生死に関わるほどの手術ではありません。当時の右眼の視力は弱いも

の正常ででしたので、心臓や腎臓などの移植手術ほどの切迫感、正直言ってありませんでした。

そして数日が経ち、眼帯を外して外の景色を眺めていたときでした。「そうだ、この左目を通して見える景色は、どなたかわかりませんが角膜移植を理解し、私に提供してくださった、その角膜を通して見ているのだ！」と感じた時、言うに言われない感動と感謝の念を覚えました。両目から熱いものが込み上げてきたこのときのことは、今でも忘れることはありません。

私は今、喫茶店を経営するその傍らで、趣味として山登りとビデオ撮影を続けています。

感謝の気持ちを「なんとかビデオ映像で皆さんに伝えたい」と思い、井上先生と眼科医局の職員さん方のご協力をいただき、アイバンクの存在を訴える作品を作り、地元のケーブルテレビ・中海テレビ放送で放映していただきました。その後、医療に関わるいろいろな作品をつくり、地元のテレビで放映していただく活動を続けています。

いただきましたこの「目」を大切に、これからも映像作品作りを通して「命を大切にする」活動をしたいと考えています。

鳥取大学医学部混声合唱団
『スプラウト』によるコーラス

「花は咲く」「かもめ」など6曲を披露していただき、迫力ある美しい歌声が会場中に響きました。参加者から「レベルが高く、素晴らしかった!」「心が洗われる気持ちがありました。」と大絶賛でした。



参加者の感想

- 移植医療について考えさせられる内容でした。提供された家族の心情(喜び・不安)をお聞きでき、大変貴重な内容でした。(30代/一般)
- シリアスな話題もユーモアを交えてお話しして下さるなど、楽しく聞かせていただくことができました。スプラウトのコーラスもとても素敵でした。(20代/学生)
- いろいろな考え方があり、どれが正しいとかはないということは共感しました。医療者として、様々な考え方を持つ人が迷ったり悩んだりされた時に寄り添えるよう、正しい知識と感性をやしなっていく必要を感じています。(30代/医療関係)

『移植を受けた子ども達の作品展』を開催



平成26年7月15日～24日まで、とりぎん文化会館で、移植を受けて元気になった子ども達が描いた絵画などを展示しました。

偶然に会場にきて見て下さる方が多く、移植手術で命を繋いだ子どもたちの生きる喜びに溢れた作品に感動されていました。また、NHK鳥取放送局、日本海ケーブルネットワーク、いなびりびょんびょんネットの方が取材に来て下さいました。

平成27年度は、12月8日～18日に倉吉未来中心にて開催予定としております。多くの皆さまにみていただければ幸いです。

作品展来場者の感想

- いろいろな病気を持っているのに、絵や作文をかいていてすごいと思いました!! (20歳未満女性)
- 思いが痛いほど伝わってくる作品ばかりでした。ドナーや家族への思いに感動しています。(20代男性)
- 偶然立ち寄りました。同じ子どもを持つ親として、一つ一つ丁寧にを見せていただきました。今、いくつになっているのかな?と、我が子と同じくらいの子どもの作品を見せていただき、きっと、どこかで、元気一杯に「生きて」いてくれていると思います。元気が当たり前で過ごしていますが、自分の立場になったらと思うと…「臓器移植」もし自分が脳死状態になり、臓器が元気であるなら「生きよう!!」としている人達に是非提供したいと思います。その人達の中で私も「生きています」と実感したいと思いました。(60代女性)

10月は臓器移植普及推進街頭キャンペーン



平成9年10月の『臓器移植法』の施行後、毎年10月は臓器移植普及推進月間です。街頭キャンペーンでは、関係団体やボランティア等総勢111名の方にご協力いただき、意思表示の呼びかけや説明リーフレットの配布を行いました。また、計850人(東、西部各300人、中部250人)の方に臓器提供意思表示カード・健康保険証・運転免許証等の所持、記入等に関するアンケート回答もいただきました。この調査も今年で17回目となり、当財団の貴重なデータとなっています。

沢山の方のご参加ありがとうございました。
ご協力いただいた皆様は以下のとおりです。(順不同、敬称略)

10月5日(日) 西部地区ーイオン日吉津店(ボランティア42名)

境港ライオンズクラブ、米子城山ライオンズクラブ、米子中央ライオンズクラブ、鳥取大学医学部附属病院、山陰労災病院、米子医療センター、米子東病院、米子看護専修学校、米子医療センター附属看護学校、鳥取県薬剤師会、西部総合事務所福祉保健局、個人参加者、鳥取県腎友会、マスコットキャラクターげんきトリピー

10月12日(日) 東部地区ーイオン鳥取北店(ボランティア38名)

鳥取砂丘ライオンズクラブ、鳥取いなばライオンズクラブ、鳥取久松ライオンズクラブ、鳥取北ロータリークラブ、鳥取信用金庫、鳥取県立中央病院、鳥取赤十字病院、吉野・三宅ステーションクリニック、さとに田園クリニック、鳥取県立看護専門学校、鳥取県立倉吉総合看護専門学校、鳥取県薬剤師会、東部総合事務所福祉保健局、鳥取県腎友会、マスコットキャラクターげんきトリピー

10月26日(日) 中部地区ー倉吉未来中心(ボランティア31名)

倉吉ライオンズクラブ、谷口病院、谷口病院附属診療所東伯サテライト、鳥取県立厚生病院、鳥取県立倉吉総合看護専門学校、中部総合事務所福祉保健局、倉吉市保健センター、鳥取県薬剤師会、鳥取県看護協会、個人参加者、鳥取県腎友会、マスコットキャラクターげんきトリピー



地域の皆様のご協力のもと、普及啓発活動を行いました

参加イベント

鳥取県看護協会主催看護フェア・鳥取大学病院看護の日イベント・米子医療センター看護の日イベント・美保基地航空祭・米子市ふれあい健康フェスティバル2014・鳥取県看護協会総会・鳥大医学部錦祭・境みなと寄席・骨髄バンクドナー登録推進講演会など。

研修会(出前講座) 33回

国立米子工業高等専門学校・鳥取歯科技工専門学校・鳥取大学医学部保健学科・米子医療センター附属看護学校・県立倉吉総合看護専門学校・鳥取看護高等専修学校・鳥取県立看護専門学校・桜ヶ丘中学校・智頭農林高等学校・倉吉西高等学校・八頭高等学校・境高等学校・米子東高等学校定時制・野島病院・西伯病院・米子東病院・鳥取大学医学部附属病院・境港ライオンズクラブ・ホームデコ境港店・夜見公民館・誠道公民館・上小鴨公民館・美保南地区公民館・鳥取市民大学・鳥取県交通安全協会米子地区協会・鳥取県安全運転学校・鳥取県警察学校検視実務専科など。

広報

- 日ノ丸バス5台にステッカー広告1年間掲載
- B S S テレビ・ラジオで臓器移植普及推進月間中にCM放送
- 朝日新聞に臓器移植普及推進月間(10月)PR広告を掲載
- 日本海新聞に目の愛護デー(10月10日)PR広告を掲載
- 読売新聞にアイバンク登録に関するPR広告を2回掲載
- J R時刻表へ当財団のPRを掲載
- 移植を受けた子ども達の作品展についてNHK鳥取テレビ・日本海ケーブルネットワーク・鳥取テレピアで放映、読売新聞に掲載
- 山陰放送おしゃべり本舗で臓器移植普及推進月間・第7回グリーンリボン公開講座をPR
- DARAZ FMラジオで臓器移植普及推進月間・第7回グリーンリボン公開講座をPR



鳥取県院内移植コーディネーター会議を開催

鳥取県院内移植コーディネーターは、県内の医療施設の職員30名が鳥取県知事より委嘱されて（任されて）おり、自病院内の移植医療についての窓口的業務、院内体制整備、普及啓発の役割を担っています。会議では、各病院の取り組み発表や研修を行い、院内移植コーディネーターとしてスキルアップ・情報交換の場となっています。

第9回 鳥取県院内移植コーディネーター会議 (平成26年6月27日 鳥取大学医学部附属病院にて開催)

＜内容＞

- ①講演：「脳死臓器提供を2例経験して
～1例は18歳未満の患者様～」
大庭 信二 氏
(呉医療センター 脳神経外科科長)
- ②講演：「角膜移植について」
井上 幸次 氏
(鳥取大学医学部視覚病態学分野 教授)



第10回 鳥取県院内移植コーディネーター会議 (平成27年1月9日 鳥取県立中央病院にて開催)

＜内容＞

- ①発表：各病院の臓器提供に関する院内体制整備と1年間の活動報告
- ②報告：「鳥取県民の臓器移植に関する意識調査結果」
永栄 幸子 (鳥取県臓器移植コーディネーター)
- ③講演：「最近の臓器提供の現状について」
深草 千亜里 氏
(日本臓器移植ネットワーク西日本支部コーディネーター)
- ④講演：「鳥取県の移植医の立場から」
杉谷 篤 氏 (米子医療センター 副院長)

第2回 山陰地区臓器提供セミナーを開催 (医療関係者対象)

平成26年12月6日(土)にしまねまごころバンクと共同で、小児の臓器提供発生時に備え、虐待対応を含む体制整備・家族への対応について周知するとともに、鳥取県、島根県内における臓器提供の院内体制整備を推進することを目的に開催しました。61名のご参加があり、鳥取県・島根県の医療関係者だけでなく、警察や児童相談所の方々にもご参加いただきました。



鳥取県の移植事情 (平成27年3月末現在)

臓器提供件数※()は平成26年度

心停止後の臓器提供 3件(1件)
脳死での臓器提供 1件(0件)

献腎移植件数※()は平成26年度

(亡くなった方からのご提供による腎臓の移植)
9件(1件)

移植希望登録者数(腎臓)

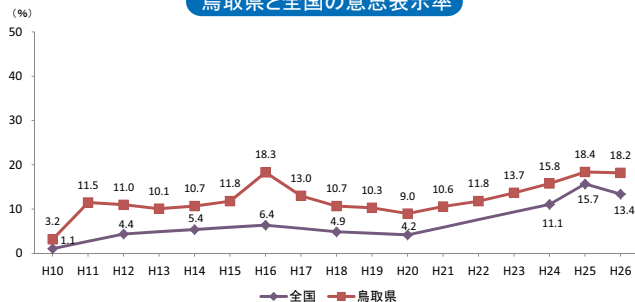
(平成26年12月末現在)
39人

鳥取県の臓器移植に関する意識調査

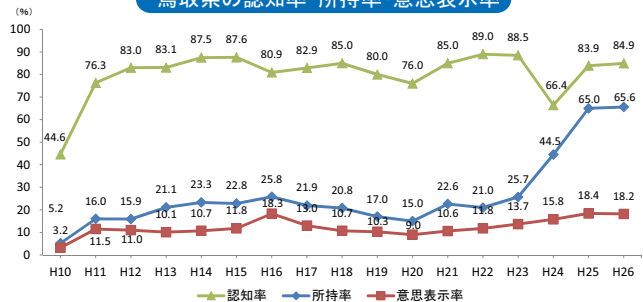
質問項目

- 認知率 … 「臓器提供意思表示カード・意思表示欄のある運転免許証や保険証で臓器提供の意思表示ができることを知っていますか？」
- 所持率 … 「臓器提供意思表示カード・意思表示欄のある運転免許証や保険証を持っていますか？」
- 意思表示率 … 「臓器提供の意思を表示していますか？」

鳥取県と全国の意思表示率



鳥取県の認知率・所持率・意思表示率



運転免許証や健康保険証の裏面に意思表示欄ができた事により、所持率が増加してきました。

「提供したい。」「提供したくない。」どちらも尊重されるべき大切なお気持ちです。

皆様にご家族とお話しするきっかけ作りや、臓器移植について正しい知識を持っていただけるよう、啓発活動を行っていきたく思っております

臓器移植に関する



Q 臓器移植とは？

A 臓器移植とは、重い病気や事故などにより臓器の機能が低下し、移植でしか治療できない方と死後に臓器を提供してもいいという方を結ぶ医療です。
第三者の善意による臓器の提供がなければ成り立たない医療です。

Q 臓器提供するために、事前に必要な手続きはありますか？

A 事前の手続きは必要ありませんが、ご自身の提供したいという気持ちを意思表示カード等で表示し、その気持ちをご家族に伝えておくことが大切です。
平成22年7月17日に施行された改正臓器移植法により、本人の意思が不明な場合でもご家族の承諾があれば臓器提供できるようになりましたが、もしもの時に家族が判断に迷わないためにも、臓器提供についての意思を表示しておきましょう。

Q 意思表示はどのようにすればいいですか？

A 意思表示の方法は①インターネットで意思登録サイトに登録する②健康保険証や運転免許証の裏面の意思表示欄に記入する③意思表示カードに記入する方法などがあります。
また、健康保険証や運転免許証に意思表示欄が設置されていない場合は、シールに記入して貼って表示することもできますので、各健康保険組合や運転免許の更新ができる窓口にご請求ください。

Q 臓器提供にかかる費用についての負担はありませんか？

A 臓器提供者(ドナー)の側には臓器提供にかかる費用は一切かかりません。
また、善意による提供なので葬儀の費用や謝礼が支払われることもありません。

Q 遺体は、どんな状態で戻ってくるのでしょうか？

A 摘出手術の傷は残りますが、通常の手術傷と同様に、からだは礼意をもって丁寧に扱われ、傷口は縫合して、清潔なガーゼでおおわれます。
その後、お身体をきれいにし、すぐにご遺体をご家族にお返しいたします。

Q 「3. 臓器を提供しません」という項目があるのはなぜですか？

A 臓器提供に関しては、提供したい意思も提供したくない意思も尊重されます。昔の「ドナーカード」と違い、「意思表示カード」にはどの意思も表示できます。
臓器を提供したくないという意思も尊重され、その意思は残された家族にとって貴重な情報になります。本人にもしものことがあった時、家族が判断に迷わないためにも、臓器提供について大切な家族とよく話し合い、意思を表示しておくことが大切です。
3に○がついている場合、家族からの提供の申し出があっても、法的にその方からは臓器の摘出をすることができません。

Q 絶対に臓器を提供したくないのですが。

A 臓器を提供しない意思は、年齢にかかわらず、口頭でも有効ですが、その気持ちがきちんと尊重されるためにも、臓器移植ネットワークの意思登録サイトに登録しておきましょう。
ここに登録しておけば、ご家族から臓器提供のお申し出があっても、ご本人の意思を確認し、提供しない意思が登録されていれば、絶対に提供されません。

賛助会へのご協力ありがとうございました。

個人・団体会員で合計 **903,000 円** の賛助会費をいただきました。

皆様からいただいた賛助会費は普及啓発、事務局運営に必要な経費として支出しました。

●団体会員(順不同)

合計 **27 団体 540,000 円**

鳥取いなばライオンズクラブ
米子城山ライオンズクラブ
境港ライオンズクラブ
境港美保ライオンズクラブ
米子グレートサウスライオンズクラブ
鳥取中央ライオンズクラブ
鳥取久松ライオンズクラブ
公益社団法人鳥取県看護協会
一般社団法人鳥取県薬剤師会

鳥取県腎友会
鳥取信用金庫
日本赤十字社鳥取赤十字病院
独立行政法人国立病院機構米子医療センター
鳥取県立厚生病院
社会福祉法人恩賜財団済生会支部鳥取県済生会境港総合病院
南部町国民健康保険西伯病院
日野病院組合日野病院
医療法人社団魚谷眼科医院

医療法人清生会谷口病院
医療法人上福原内科クリニック
医療法人社団ミオ・ファティリティ・クリニック
医療法人十字会野島病院
医療法人真誠会真誠会セントラルクリニック
医療法人明穂整形外科
医療法人さとに田園クリニック
医療法人ファミリークリニックせぐち小児科
医療法人ふなこし眼科

●個人会員

合計 **126 名 363,000 円**

県職員 92名 理事・監事・評議員 4名 医師会 23名 一般 7名

●ご寄附をいただきありがとうございました。(順不同、敬称略)

境港ライオンズクラブ 164,613円 浦木 誠一 10,000円
米子ライオンズクラブ 20,000円 坂口 由美 10,000円
※うち40,000円はアイバンク活動

平成26年度 決算報告

平成26年度も鳥取県からの補助金、皆様からいただいた賛助会費、県債と国債の運用益等により活動しましたので、ご報告します。

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

経常収益

(単位:円)

基本財産運用益	843,357
受取賛助会費	903,000
角膜等あっせん受取手数料	400,000
鳥取県受取補助金	14,442,406
(公社)日本臓器移植ネットワーク受取補助金	1,172,957
(公財)日本アイバンク協会受取補助金	135
受取寄附金	204,613
受取利息	1,093
経常収益計	17,967,561

経常費用

(単位:円)

事業費	14,802,428
臓器バンク	12,961,491
アイバンク	1,840,937
管理費	2,876,277
経常費用計	17,678,705
当期一般正味財産増減額	288,856



第8回 グリーンリボン公開講座のご案内

■日時 平成27年10月18日(日)13時30分から16時30分(13時開場)

■場所 県民ふれあい会館大ホール
(鳥取市扇町21)

テーマ 『移植医療を考える講演会とコンサート
～つなぐ命の大切さを考える～』

ご来場をお待ちしています。

入場
無料

手話通訳
あり

講演1 『透析療法の進歩とこれからの腎移植』
吉田 克法 氏
(奈良県立医科大学附属病院 泌尿器科・透析部 教授)

講演2 『臓器提供者の家族として』
ドナー家族 様

講演3 『心臓移植を体験して』
渡邊 源喜 氏



●● コンサート鳥取市立桜ヶ丘中学校吹奏楽部 ●●

賛助会員ご加入・ご寄附のおねがい

当財団の運営は、基本財産の運用益と皆様からの賛助会費やご寄附による支援により行っております。当財団の活動に皆様の温かいご支援をお願いいたします。当財団の賛助会員にご加入いただいた場合、特定公益増進法人への寄附金として、金額により税制上の優遇措置が受けられます。(詳しくは最寄りの税務署へお問い合わせください。)

当財団にご連絡いただければ、払込手数料が無料になる払込用紙を送りいたします。また免税申請をされる場合には、当財団発行の領収書と税額控除に係る証明書が必要となりますので、お申し付けください。

賛助会員会費

団体年会費 一□ 20,000円
個人年会費 一□ 2,000円

振り込み先

郵便振替 01350-5-92999

口座名義

公益財団法人
鳥取県臓器・アイバンク

腎移植についてのご相談

鳥取県臓器・アイバンクでは、腎臓移植や移植医療についてのご相談やご質問に移植コーディネーターがお答えいたします。

また、専門医師へのご相談も調整させていただきます。

移植に関する素朴な疑問など、お気軽にお電話ください。

連絡先: TEL 0859-34-4809
(相談無料:受付は平日8:30~17:15)

専門医師(腎移植認定医)

濱副 隆一: 米子医療センター病院長(外科医)
杉谷 篤: 米子医療センター臨床研究部長(外科医)
高橋 千寛: 米子医療センター診療部長(泌尿器科医)

お知らせ

無料

講師派遣

県民のみなさまに移植医療について正しくご理解いただけるよう、鳥取県臓器移植コーディネーターを研修会・講演会に派遣しております。

職場、公民館、地域の会合など、どのような機会でも、短時間であっても可能です。

内容は、いのちの尊さや個人の権利、移植の基礎知識など、ご希望に添い、移植医療を通じて「命の大切さ」をみなさまと一緒に話し合う研修を行っておりますので、ぜひご利用ください。



公益財団法人 鳥取県臓器・アイバンク TEL0859-34-4809

〒683-8504 米子市西町36番地の1(鳥取大学医学部内) ホームページ <http://www.zouki-t.net>

臓器・アイ

検索